

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法士学科		科目区分	専門分野	授業の方法	実習
科目名	作業療法評価学実習 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	昼間部1年		学期及び曜時限	前期	教室名	機能訓練治療実習室/803
担当教員	三田 直人/上東 隆明					
実務経験と その関連資格	<p>三田: 作業療法士として身体障害領域の病院で5年間勤務。 主たる疾患として、リウマチ、脳梗塞、パーキンソン病、頸髄損傷、大腿骨頸部骨折などのリハビリテーションに従事。 資格: 音楽健康指導士 準2級、地域音楽コーディネーター、認知症ライフパートナー検定3級。</p> <p>上東: 作業療法士として身体障害領域の病院で8年間勤務。今まで約200人以上の患者様へのリハビリテーションを実施。 資格: 福祉住環境コーディネーター2級を取得済み。</p>					
《授業科目における学習内容》						
<p>作業療法評価の基本的概念の理解及び主に関節可動域測定を解剖生理学ー骨格・関節・筋系の知識と結びつけ理解を深めるために、授業の目標及び期待される学習効果について講義・実技を交え講義を行います。実技試験と実技試験後の定期試験で成績を決定します。</p>						
《成績評価の方法と基準》						
<p>定期試験:40% 実技試験:40% 小テスト:20%(毎回実施)</p>						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
<p>教科書:①「標準作業療法学 作業療法評価学 第4版」</p>						
《授業外における学習方法》						
<p>「臨床での測定精度を高める！ ROM測定法 代償運動のとらえ方と制動法の理解と実践」の説明、写真を理解しながら実技練習を行ってください。</p>						
《履修に当たっての留意点》						
<p>臨床の現場で必要な授業となります。正しく評価出来るように授業の中でしっかり勉強していきましょう。評価内容を理解をし、体を使いながら関節可動域を測定できるように目指していきましょう。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	関節の構成要素について理解する。 運動面、運動軸を理解する。		教科書、配布資料	「標準作業療法学 作業療法評価学 第4版」の関節可動域測定のところを確認しておく。	
	各コマにおける授業予定	運動とは①				
第2回	授業を通じての到達目標	運動方向、専門用語を理解する。		教科書、配布資料	「標準作業療法学 作業療法評価学 第4版」の関節可動域測定のところを確認しておく。	
	各コマにおける授業予定	運動とは②				
第3回	授業を通じての到達目標	作業療法の流れと評価の過程を理解する。		教科書、配布資料	「標準作業療法学 作業療法評価学 第4版」の関節可動域測定のところを確認しておく。	
	各コマにおける授業予定	評価とは①				
第4回	授業を通じての到達目標	評価の流れについて理解する。 関節可動域測定の基礎知識(制限の原因・関節構成要素)を理解・列挙できる。		教科書、配布資料	「標準作業療法学 作業療法評価学 第4版」の関節可動域測定のところを確認しておく。	
	各コマにおける授業予定	評価とは②、関節可動域測定とは①				
第5回	授業を通じての到達目標	関節可動域測定の目的、意義を理解する。測定方法を理解する。		教科書、配布資料	「標準作業療法学 作業療法評価学 第4版」の関節可動域測定のところを確認しておく。	
	各コマにおける授業予定	関節可動域測定とは②				

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	肩、肘関節の関節可動域を正確に測定することができる。	教科書、配布資料	「標準作業療法学 作業療法評価学 第4版」関節可動域測定の関節可動域表示ならびに測定法を確認する。
	各コマにおける授業予定	実技①肩関節①(屈曲・伸展)、肘関節①(屈曲・伸展)		
第7回	授業を通じての到達目標	肩関節、肩甲帯の関節可動域を正確に測定することができる。	教科書	「標準作業療法学 作業療法評価学 第4版」関節可動域測定の関節可動域表示ならびに測定法を確認する。
	各コマにおける授業予定	実技②肩甲帯・肩関節②(外転・内転、水平外転・水平内転、内旋・外旋)		
第8回	授業を通じての到達目標	前腕、手関節の関節可動域を正確に測定することができる。	教科書	「標準作業療法学 作業療法評価学 第4版」関節可動域測定の関節可動域表示ならびに測定法を確認する。
	各コマにおける授業予定	実技③前腕(回内・回外)、手関節(橈屈・尺屈、背屈・掌屈)		
第9回	授業を通じての到達目標	上肢に関する関節可動域を正確に測定することができる。	教科書	「標準作業療法学 作業療法評価学 第4版」関節可動域測定の関節可動域表示ならびに測定法を確認する。
	各コマにおける授業予定	実技④上肢全て(復習)		
第10回	授業を通じての到達目標	股関節の関節可動域を正確に測定することができる。	教科書	「標準作業療法学 作業療法評価学 第4版」関節可動域測定の関節可動域表示ならびに測定法を確認する。
	各コマにおける授業予定	実技⑤股関節(屈曲・伸展、外転・内転、内旋・外旋)		
第11回	授業を通じての到達目標	膝、足関節の関節可動域を正確に測定することができる。	教科書	「標準作業療法学 作業療法評価学 第4版」関節可動域測定の関節可動域表示ならびに測定法を確認する。
	各コマにおける授業予定	実技⑥膝関節(屈曲・伸展)・足関節(底屈・背屈、外がえし・内がえし、内転・外転)		
第12回	授業を通じての到達目標	頭頸部関節の関節可動域を正確に測定することができる。	教科書	「標準作業療法学 作業療法評価学 第4版」関節可動域測定の関節可動域表示ならびに測定法を確認する。
	各コマにおける授業予定	実技⑦頸部(屈曲・伸展、左回旋・右回旋、右側屈・左側屈)		
第13回	授業を通じての到達目標	体幹の関節可動域を正確に測定することができる。	教科書	「標準作業療法学 作業療法評価学 第4版」関節可動域測定の関節可動域表示ならびに測定法を確認する。
	各コマにおける授業予定	実技⑧体幹(屈曲・伸展、左回旋・右回旋、右側屈・左側屈)		
第14回	授業を通じての到達目標	第6～13回で学んだ関節可動域を正確に測定することができる。	教科書	「標準作業療法学 作業療法評価学 第4版」関節可動域測定の関節可動域表示ならびに測定法を確認する。
	各コマにおける授業予定	実技練習と補足。		
第15回	授業を通じての到達目標	第6～13回で学んだ関節可動域を正確に測定することができる。	教科書	「標準作業療法学 作業療法評価学 第4版」関節可動域測定の関節可動域表示ならびに測定法を確認する。
	各コマにおける授業予定	実技試験。次回に定期試験を行います。		